

表紙の言葉

『黒漆烏獸草花箔絵椀』

高さ10.3cm、直径13.5cm、縁が少しすぼまったかたちの、箔絵で施された金の文様が華やかな黒漆の椀です。箔絵とは、漆で文様を描いたあと、乾かないうちに金箔を貼り付ける加飾技法です。

椀の外側は、蓋と身ともに口縁(縁の部分)には雷文繋ぎ、高台(底の部分)には山を繋げたような文様が廻らされています。雷文繋ぎは工芸品によく用いられる文様で、稲妻をあらわすなどといわれています。

中央には、ざくろ、鳥、栗鼠、柳などが描かれています。このような草花や鳥、動物などを組み合わせた文様は鳥獸草花文と呼ばれます。器全体にひろがる鳥獸草花文は、一見連続文様に見えますが、よく見ると異なるモチーフがとても細やかに描かれています。また規則性ととられず様々なモチーフを配置しているところが、どこかのびやかな印象を与える効果につながっているように思われます。今回展示しているのは2客ですが、本来は5客セットで収蔵されており、文様はすべて異なります。

ところで、漆器に文様を描くとき、下絵を用いないこともあります。おおかたは和紙などに顔料で下絵

を描き、それを器面に写し取って大体の目安とします。しかし、この作品には、文様と同じかたちの傷が入っており、針のようなものを使って目安をつけたことが以前修復した際の分析で分かっています。さらにその技術が「朱漆烏草花箔絵面盆」(右図)と共通していることも分かっています。二つの作品は制作技術だけでなく文様も似ているので、何らかの関連性があるのではないかとされていて、その点からも貴重な作品といえます。

また、現在は外側・内側ともに黒色ですが、本来内側は朱塗りでした。今でも十分に趣がある椀ですが、作られた当初は朱と黒と金のコントラストが鮮やかで、さぞかしらびやかな雰囲気だったことでしょう。

この作品は常設展示室1室に展示しています。



朱漆烏獸草花箔絵面盆

(當山)

美術館スケジュール 2010年4月～7月

■常設展

琉球王朝文化の華-漆芸-

■平成22年度前期

「漆でかざる」

・平成22年4月20日(火)～10月下旬

■企画展

■美術館自主企画

・4/1(木)～4/11(日) 浦添市美術館 実習教室発表展

・5/2(日)～5/16(日) 収蔵品展
～琉球八景・琉球交易港図屏風～(仮称)

■その他

・4/1(木)～4/11(日) 第12回 浦添市美術館友の会 作品展

・4/20(火)～4/30(金) 中西 繁 展「棄てられた街」in沖繩

・5/22(土)～6/6(日) 沖繩庶民の装い

・6/12(土)～6/20(日) 保志門 繁・幸子 個々展

・6/24(木)～6/27(日) 第43回 書遊会 沖繩書道展

・6/30(水)～7/4(日) 第27回 日本現代美術教会 沖繩支部展

7/10(土)～8/22(日) 手塚治虫 作品展
～未来と平和のメッセージ～

開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

*金曜日は午後7時まで(入館は午後6時30分まで)

休館日

毎週月曜日

*展示替えにともなう臨時休館平成22年4/12(月)～/19(月)

開館日のお知らせ

当美術館の休館日は毎週月曜日となっておりますが、**月曜日が公休日**の場合は**開館**しております。またその際、代休日は取らずに次週の定期休館日まで連日開館いたします。どうぞお気軽にご来館ください。

好評発売中! 沖縄の人間国宝展 図録

今年1月に開催した展覧会「沖縄の人間国宝展 ～伝統工芸の粋～」で展示された、重要無形文化財保持者5名(與那嶺貞・宮平初子・玉那覇有公・平良敏子・金城次郎)の作品図録を好評発売中。文化庁や東京国立博物館、東京国立近代美術館・工芸館の所蔵作品を含む84点の貴重な作品を紹介した、A4版全28ページ(¥800)。技と美を極めた巨匠たちの作品を、ぜひご覧ください。問い合わせ098-879-3219(浦添市美術館友の会)



「琉球交易港図屏風」をタッチパネルで

当館所蔵の「琉球交易港図屏風」には、琉球王国末期の首里・那覇港の様子が描かれています。中国から戻ってきた進貢船やハーリーを見物する人々、薩摩役人の姿など、細部を見てあきない人気の作品です。

この屏風をデジタル撮影した京都大学工学研究科井手研究室のご協力により、屏風がタッチパネルになりました。部分を拡大して見ることが出来たり、アニメ仕立てにしたりと、ますます屏風が楽しめるようになっていきます。ぜひ一度ご利用ください。

